チーム名	たまわカルテット		大学名·学部 青山学院大学·総合文化政策学部	焼津ステージ
プラン名称	WANDO YAIZU ~立ち止まって考え、つながり、発見するまち~			が手へり一ク
テーマ	「焼津温泉」を活かした持続可能な「観光まちづくり」			
リーダー名	本間風香	- メンバー名	山口莉果、渡邊芽依、大橋錬太郎	
指導教職員名	川又啓子			

WANDO YAIZU

WANDO(湾処)とは、河川において本川とつながりつつも流れが緩やかでせが翌キっているエリマを

「 焼津の課題=らしさ」を"強み"に

プロジェクト

- 観光化に保守的な雰囲気
- 首都圏からのアクセスの悪さ
- 温泉が比較的小規模であり 点在していること

- 保守的な雰囲気やアクセスの悪さから生ま れる焼津独自の"落ち着き"を価値とする
- 温泉を非日常としての価値ではなく、ワー ケーションという日常の延長の中で高水質 な温泉を普段使いできるという価値とする

- 若い世代のによる 交流を重視 する取り組みが見られる
- 水揚げ量などの面で日本有数 の港町であり、海の幸が豊富

ターゲット: 関東甲信越のリモートワーカー

(1)ワーケーション需要を基軸に温泉や水産業 などの地域の潜在的な資産を束ねる包括的な プロジェクト であること

②焼津らしさを尊重し、地元民を はじめとした様々なステークホル ダーへの配慮を重視していること

スモールスタートとしての包括的なプロジェクト。

「 湾処」となることで持続的な発展をすることを目標とした

「WANDO YAIZU」は焼津がワーケーション地さらにはコミュニティと

魚河岸シャツ=進住民の仕事着

- すくなる ワークスペースで

くつろぐ、味わう

温泉• 宿泊 仮設イベン 官民連携

情報発信

移動手段

低価格帯

具体案

「 駅前通りから "交流"と"更新"を」

周遊促進のためにけるギズ亜鉱 れ続けるコン れらをまずは 的・実験的に如

軒先マルシュ」 軒先を利用した、 出店者・利用者共 気軽なマルシェ。 テーマを設定し、 定期的に実施



「 海の幸 one day shop」



空き家やプレハブを 利用して、毎日~数 日ごとに店主が変わ る店舗を設営。生産 者と消費者が密に交

※写直はイメージ

津の未来しまりす」とは既海にあを持つなこれました。 **★ ★ 「** 暮らす」とは焼津に家を持つなど はなく、日常に近い感覚で過ごすということを指す。

効果

る持続的な収益

空き家や空きスペースの有効利用

将来的な移住人口の増加

業界を横断した連携による相乗効果

リピート率の高い顧客の獲得によ

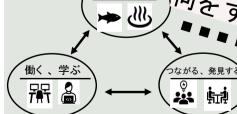
地元資源の訴求機会や需要認知の機会の創造

外の人のために中の人が我慢しないために、反対に中の人だけで孤立し ないようにするために、「外の人も中の人も」同じ焼津が好きであるこ とが重要だと考える。非日常を味わえる場所はたくさんあるが、日常を 豊かにする第二の生活地はあまりないのではないだろうか。そんな場所

として、焼津に魅力を感じ ((上)) 焼津に関わる人が増えて

いく未来を私たちは 「WANDO YAIZU」 の先に思い描く。

|みんな同じ焼津が好き



「WANDO YAIZU」において、 ワーケーションに訪れる人々は 「準住民」と位置付けられる。 上記のサイクルの中で、

「立ち止まって考え、つながり、 発見する」ための、働く人々に とって第二の生活地となることを 目指す。

焼津の"落ち羊キ"た汗かした ワークスペー

既存の施設をプロジェ より交流を重視した旅 "落ち着き"を活かしつ ワーカーのさまざまな 需要に応える。

Homebase YAIZU →



ークスペースの 太大・多様化

Pick up!!